

新育第689号の2

平成30年10月26日

保 育 園 長 様
認 定 こ ど も 園 長 様
地域型保育事業施設長 様
認 可 外 保 育 施 設 長 様

新潟市こども未来部
保 育 課 長

プール活動・水遊びを行う場合の対応についての調査（報告）

日頃より、園生活における安全管理についてご配慮いただき感謝申し上げます。

「プール活動・水遊びを行う場合の対応についての実態調査」の依頼に対しては、ご多用の中、回答のご協力をいただきありがとうございました。

この度、実態調査のとりまとめが終わりましたので、別紙のとおりご報告いたします。

今後とも保育中の園児の保健及び安全について、十分ご配慮くださいますようお願いいたします。

◆お問い合わせ◆

新潟市こども未来部 保育課
指導グループ

T E L 025-226-1215

平成30年度

プール活動・水遊びを行う場合の対応についての実態調査(集計)

実態調査期間

平成30年7月11日～9月14日

実態調査 対象保育施設			
	施設数	回答数	回収率
公立保育施設	87	87	100.0 %
私立保育園	98	82	83.7 %
認定こども園	61	52	85.2 %
地域型保育事業施設	15	13	86.7 %
認可外保育施設	42	22	52.4 %
合計	303	A 256	84.5 %

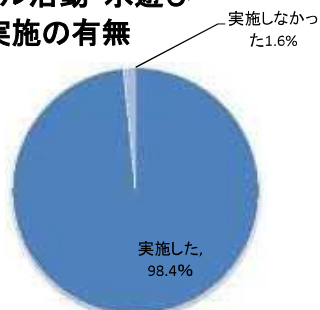
左記のとおり、ご多用の中
80%以上の保育施設から回
答を頂きました。

全体回答数(A)に対する割合

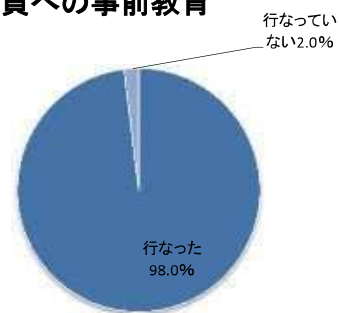
1. 今季プール活動・水遊び 実施の有無	ア 実施した	B 252	98.4 %
	イ 実施しなかった	4	1.6 %
2. プール活動・水遊びを行う 場合の職員への事前教育	ア 行った	C 251	98.0 %
	イ 行っていない	5	2.0 %

ほとんどの園で「プール活動・水遊びを行う場合の事前教育を行っていました。
園の事情により「プール活動・水遊びを実施しないので事前教育も行っていない園」と「プール活動・
水遊びは実施するが、毎年同じことを行うだけなので事前教育は行っていないという園」がありまし
た。

1. プール活動・水遊び
実施の有無



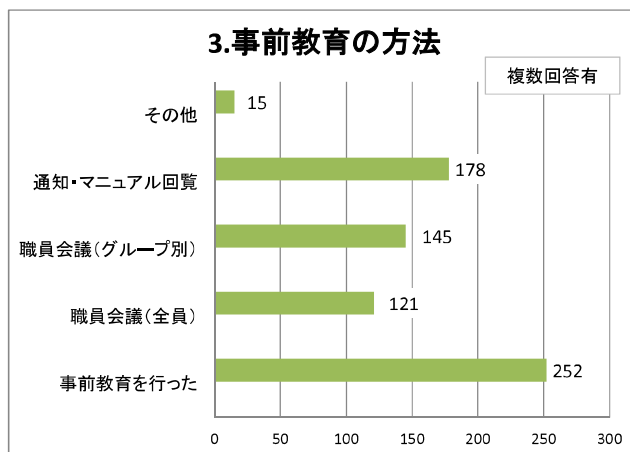
2. 職員への事前教育



事前教育を行った数(c)に対する割合			
3. 事前教育の方法 (複数回答可)	ア 全職員による職員会議	121	48.2 %
	イ グループ別(担当年齢や経験年数・正職臨時等)職員会議	145	57.8 %
	ウ 国からの通知文・事故防止マニュアルの回覧	178	70.9 %
	エ その他	15	6.0 %

エ その他

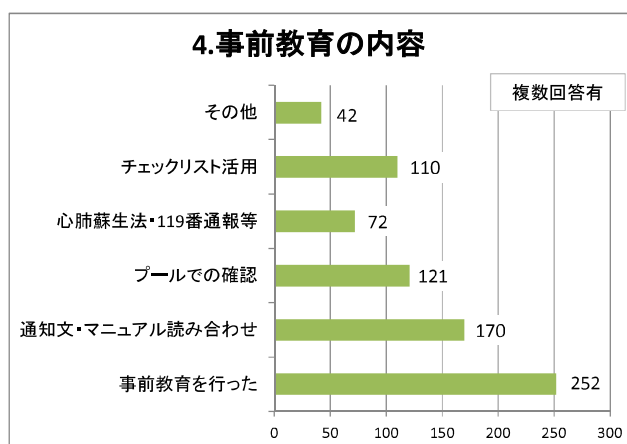
- ・職員会議に出られない職員には、その内容を伝達・回覧。
 - ・全職員にマニュアルを配布。
 - ・危機管理チームやプール担当などで会議。
- 等の記述がありました。
各施設において、複数の方法で取り組んでいただいたことが分かりました。



事前教育を行った数(c)に対する割合			
4. 事前教育の内容 (複数回答可)	イ 適切な監視方法について実際にプールで確認を行った	121	48.2 %
	ウ 心配蘇生を始めとした応急手当や119番通報の訓練を行った	72	28.7 %
	エ 国通知付属資料の「チェックリスト」を活用した	110	43.8 %
	オ その他	42	16.7 %

オ その他

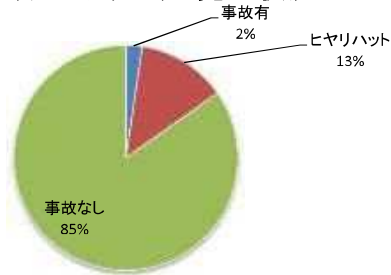
- ・「保育の計画」作成の手引き、プール安全管理のプロチャートを活用。
- ・園でマニュアルや独自のチェックリストを作成。
- ・過去の事故事例やヒヤリハット事例の紹介・検証。
- ・保育の安全研究・教育センターwebサイトの資料を参考にした学習会。
- ・区で作成したチェックリストを活用。
- ・消防署・救急救命士による心肺蘇生法・AED操作法・応急手当訓練。
- ・DVDを活用したAED操作法
- ・事前打ち合わせ(プール活動計画・職員配置図の作成・クラス時間割の作成等)



事前教育を行った数(C)に対する割合

5. 今季のプール活動 水遊びにおいて (複数回答あり)	ア 監視に専念する人員が確保できなかったため 中止したことがあった	55	21.8 %
	イ 医療機関に受診する事故があった	6	2.4 %
	ウ ヒヤリハットがあった	33	13.1 %
	特に何もなかった(回答欄に選択なし)	157	62.7 %

5. 事故・ヒヤリハット発生状況



《医療機関に受診した事故の内容》

- ・プールサイドで転倒し拇趾に擦過傷
- ・水鉄砲が目にあたり白目部分に
内出血様(角膜びらん・眼球打撲症)
- ・蜂に刺される
- ・潜って遊んでいる際、プールの底に
顎をぶつけ裂傷
- ・プールから上がる際足指を強打
- ・職員の熱中症

○「医療機関に受診する事故:6件」「ヒヤリハット:33件」の発生報告がありました。

6件の事故内容は上記の通りです。救急搬送されるような事故はありませんでしたが、ヒヤリハットの中に、大きな事故につながる内容も多くありました。資料最後にまとめて記載しましたので参考にしてください。

○ 監視に専念する人材が確保できないためにプール活動・水遊びを中止した園が55園ありましたが、今年の夏は、例年にない猛暑であったため、人員が確保できていても、当日の気温・暑さ指数を参考にプール活動・水遊びを中止したり、時間を短縮して行うことも多くあったようです。

6. 園で取り組んだ具体的な工夫

ー 監視に専念する人への工夫 ー

- ・監視者が一目でわかるように以下のものを活用した。
(ビブス・ハチマキ・タスキ・麦わら帽子・腕章・エプロン・赤いメガホン・監視役と書かれた名札・蛍光色のゼッケン等)
- ・子ども達にも監視役について説明し、話かけたりしないように注意を促した。
- ・人員が不足する時は、園長・主任がその役を負った。(常に園長・主任が行った園もある)
- ・緊急に対応できるように、ホイッスル・携帯電話・電話の子機・トランシーバーを携帯した。

ー 園児の安全管理への工夫 ー

- ・プールサイドにマットを敷き詰め転倒防止をした。
- ・防犯カメラの活用。(職員の不備には現場へ行き注意・指導した)
- ・パラソル・日よけシート・よしずなどで紫外線対策。
- ・ひとクラスの人数が少ない場合・・・合同して職員の人材確保。
- ・ひとクラスの人数が多い・・・グループに分かれて活動。

ー その他 ー

- ・職員の監視＋(都合のつく)保護者の協力

異常な暑さの為にプール活動や水遊びを中止しなければならないことも多くあった今年度の夏。

調査結果でもわかるように、プール活動・水遊びに対して、各保育施設において、様々な取り組みのもと、ガイドラインに示された「監視に専念する者」と「指導等を行う者」の役割分を徹底するという、安全に対する意識を高く持って関わっていただいたおかげで、溺れて救急搬送されたという事故報告はありませんでした。

ご多用の中、本調査にご協力いただきありがとうございました。

今後とも保育中の保健・安全についてご留意くださるようお願いいたします。

【大きな事故につながる可能性を持った「ヒヤリハット」】

- 友達を呼ぼうとしたが、水に浮いている状態で聞こえず、呼ぶつもりで頭を押さえ、相手が沈んだ。
- 兄弟同士で水中にもぐっていた弟に兄がかぶさるように上に上がった。プールの中に職員は2人、監視役は1人いた。プールの中の職員一人がすぐに兄を引き離した。
- 泳いでいる子の上に他児が上がる。
- 4歳児女児2名。プール内で手をつないで遊んでいたところ、1名が水中で転び、手をつないでいたためすぐに立ち上がれなかった。
- プール活動が終わりプールから子どもたちを上げたが、3名がすぐに上がらず、ふざけてひとりの子を押し水に潜らせた。すぐに担当が気づき大事に至らなかった。
- 支援を必要とする園児が、担当者は側にいたが目が離れたときに、一人でプールに入ってしまった。水に潜るとかケガ等はなかった。
- 1歳児が10センチくらいの水位で転んで、うつぶせで倒れたためすぐに監視していた職員が抱きかかえた。
- 運動場で準備体操を行いプールに向かうがその際の人数確認を怠ってしまった。園児ひとりがプールに入りたくなくて保育室にこっそり隠れていたことに途中で気が付いた。
- 少し気になる子として配慮していた年長児がプールの中で友達の肩にのり沈めてしまった。職員が隣にいたのですぐに水からあげた。
- プールサイドの柵の隙間から抜け出して道路に出ようとした。
- プールサイドで滑って転倒(数件あり)
- プールの縁に腰掛ける、身をのり出す 等(数件あり)
- プール内で転倒(数件あり)